

九州におけるシーニックバイウェイ活動の現状

宮崎大学

学生会員

永山昭二

宮崎大学

正会員

出口近士

宮崎大学

正会員

吉武哲信

1. はじめに

近年は、美しい国土づくりが望まれる中で景観に配慮した道づくりが求められてきている。

この手本として、道を利用した政策としてアメリカで発祥したシーニックバイウェイ（以下、SB と略記する）がある。これは、沿道、地域、道路などにある空間を一体にとらえ、新しい道路空間の形成を目指すという考え方である。この考えの下に、先導的に北海道でSB が導入されてきている。また、全国においても導入が模索されており、次にSB が九州においてもSB の導入が試みられている。

一方で、SB は取り組まれて間もないために、SB に関する研究はまだ多くない。報告されているのは、SB 北海道に関する事例報告や紹介¹⁾、SB 関係者間の協働と意識に与えた影響²⁾やSB 北海道における情報提供の手法と効果³⁾などである。

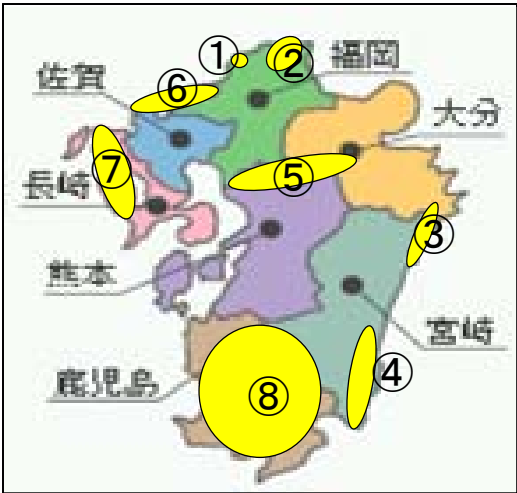
本論では、九州におけるSB 導入に関わる現在の各地域の活動状況を把握し、これらを分類・整理するとともに若干の考察を加えるものとする。

2. 調査対象地域の概要

国土交通省がH17 年に日本風景街道を設置した。日本風景街道ではSB ルートを公募し、その際に、提出された資料⁶⁾を調査資料として用いた。

今回、対象とする九州の8ルートでSB ルートとして応募されており各地域で活動が行われている。図－1 は調査対象地域である。都市部にあるルート、地方にあるルートと様々であり、⑤阿蘇くじゅう・やまなみハイウェイ以外の7ルートが海のルートである。また、ルート（①と②）は都市域である。

表－1 はルート名称と活動目的であり、SB への取り組みを観光やまちづくりの活性化に活かそうとして



図－1 対象地域

いる。各ルートでは地域住民やNPO、行政関係者が集まり、独自に団体を設けてSB 導入に向けて試行錯誤を繰り返している。

3. ルートの分類と特徴

SB ルートの応募資料を用いて分類表を用いて部類表を作成した。分類した表－2 は、「組織」「活動」「情報」「資金」の4つの視点から分類できた。

「組織」はルートの応募主体と道づくりパートナーシップを構成する組織・団体に分類した。応募主体は組織設立が計画されている。

「活動」は組織・団体の活動目的・方針・取り組みテーマに分類した。活動目的・方針・取り組みテーマはまちづくりやみち、自然景観、文化などのキーワード

表－1 ルートの名称と役割

番号	エリア	ルート名	組織・団体名	活動目的
①	福岡県	唐津街道原町	唐津街道南郷協議会	原町に残る旧唐津街道沿いを中心としたまちなみを次の世代に継承していくとともに、住環境の整備改善、地区の活性化を図る
②	北九州市	北九州おもてなしの“ゆっくりかいどう”	北九州市	北九州市の財産である豊かな自然と美しい風景、これにまつわる歴史と文化のすばらしい財産を「かいどう」でつなぐとともに、将来にわたり継承していく。この取り組みは市民や利用者等と行政が一体となったまちづくり・風景づくりであり、訪れる人への「おもてなし」と北九州市の新たな魅力を創造するものである。
③	大分県・宮崎県	日豊海岸シーニックバイウェイ(蒲江・北浦大漁海道)	かまえブルーーツーリズム研究会	来訪者との交流を通じて、蒲江の豊かな自然や産業を守り育てることを基本に、漁業、観光業、地域づくり団体など様々な立場の会員がブルーーツーリズムについて研究、実践することにより、持続的な漁業を本地区的に根付かせることを目的とする
④	宮崎県	日南海岸きらめきライン	日南海岸地域シーニックバイウェイ推進協議会	日南海岸固有の自然・景観・歴史・文化・おもしろさを最大限にいかす「おもてなし」を資源として、未知空間や道の連続性を活用した多彩な地域活動を展開することにより、訪れる人と迎える地域の交流による新たなコミュニティを創出し、地域が元気になる、訪れた人・まち・自然が魅力ある地域づくりを目指す
⑤	熊本県・大分県	阿蘇くじゅう・やまなみシーニックバイウェイ	阿蘇くじゅう・やまなみシーニックバイウェイ協議会	熊本・大分の市民が連携し、阿蘇くじゅうの自然を守り、多くのわき道の奥に宝を持つ、魅力ある地域とし、広く情報を発信する。「自然を観光が融合したツーリズムの創造」を通じて、神々の里にふさわしく、将来世代が誇りを持って暮らせる持続可能な地域とする
⑥	福岡県・佐賀県	玄界灘風景街道	玄界ウエストコースト都市圏会議	限界灘に面し、歴史、文化、風土など共通の基盤を有する市町が、連携、協力し、地域の発展及び交流の推進を図ることを目的とする
⑦	長崎県	長崎サンセット・オーシャンロード	長崎シーニックバイウェイ推進協議会	夕日・教会・橋などのユニークな景観を活かした新たな観光ルートづくりや、地域のイベントの支援、楽しんでまち歩きができる環境づくりを行うことにより、地域の魅力を高める。地域を訪れた人へ、歴史・文化・自然などを体験してもらい、訪れる人と迎える地域との交流を通じて地域の活性化を図る
⑧	鹿児島県	錦江湾あったまる～と(仮称)パートナーシップ発足準備会	錦江湾あったまる～と(仮称)パートナーシップ発足準備会	地域の様々な資源を活用することにより「住民が誇りをもてる道づくり」「来訪者が何度も訪れたくなる道づくり」を通じ地域の活性化と各々のブロックの連携によるさらなる発展を目的とする

表-2 ルート分類表

番号	応募主体 ¹⁾				組織 ²⁾				活動 ³⁾													情報		
	組織・団体名	行政	民間	法人団体	応募主体の組織	行政	民間	その他		情報	みち	観光	まちづくり	自然景観	歴史	文化	連携	意識	特徴(エリア)	HP ⁵⁾	情報誌 ⁶⁾			
①	唐津街道南郷協議会	○			まちづくり協議会	国 県 市町村	○ ○	 	目的 方針 テーマ	 ○ ○	 ○ ○	 ○ ○	○ ○ 	 ○ ○	 ○ ○	 	 	 ○ ○	都市					
②	北九州市	○			公共団体 町内会、自治会 民間団体	国 県 市町村	○ ○	○ 	目的 方針 テーマ	 ○ 	○ ○ 	○ ○ 	○ ○ 	○ ○ 	○ ○ 	○ ○ 	○ ○ 	○ ○ 	都市					
③	かまえブルー ツーリズム研究会		○		財団法人	国 県 市町村	○ ○ ○	○ 	目的 方針 テーマ	 ○ 	○ ○ 	○ ○ 	○ ○ 	○ ○ 	○ ○ 	○ ○ 	○ ○ 	○ ○ 	海	延岡 観光協会 HP	△	道守大分会 議通信	○	
④	日南海岸地域 シーニックバイ ウェイ推進協議 会		○			国 県 市町村	○ ○ ○	○ 	目的 方針 テーマ	 ○ 	○ ○ 	○ ○ 	○ ○ 	○ ○ 	○ ○ 	○ ○ 	○ ○ 	○ ○ 	海	日南海岸 きらめき ライン	○	みちくさ	○	
⑤	阿蘇くじゅう・や まなみシーニック バイウェイ協議 会		○	○	民間団体	国 県 市町村	○ ○ ○	○ 	目的 方針 テーマ	 ○ 	○ ○ 	○ ○ 	○ ○ 	○ ○ 	○ ○ 	○ ○ 	○ ○ 	○ ○ 	山	道守くまもと 会議	△			
⑥	玄海ウエストコースト都市圏協議	○ ○			自治体が設置する連絡会議	国 県 市町村	○ ○ ○	○ 	目的 方針 テーマ	 	 	 	 	 	 	 	 	 	海		グリーン ニュース佐賀 出張所だより ラジオ放送	○ ○		
⑦	長崎シーニック バイウェイ推進 協議会	○			公共団体	国 県 市町村	○ ○ ○	○ 	目的 方針 テーマ	 ○ 	○ ○ 	○ ○ 	○ ○ 	○ ○ 	○ ○ 	○ ○ 	○ ○ 	○ ○ 	海		ボランティア 佐世保通信 小浜温泉	○ ○		
⑧	錦江湾あったま～と(仮称) パートナーシップ 発足会			○	公共団体 民間団体	国 県 市町村	○ ○ ○	○ 	目的 方針 テーマ	 ○ 	○ ○ 	○ ○ 	○ ○ 	○ ○ 	○ ○ 	○ ○ 	○ ○ 	○ ○ 	海		おおすみ分科会誌	○		

ドに分類した。ルート⑥の玄海灘風景街道に関しては、表現の仕方が他ルートと違い、分類しにくいので省略した。活動は、各ルートとみちを活かしたまちづくり、地域づくりが多く、もてなしの心や誇りを持って活動に取り組んでいこうとしている。また、観光地としてルートの情報を発信して、地域と協働・連携を取りながら活動していこうとしている。

「情報」はHP⁴⁾と情報誌⁵⁾に分類した。HPはインターネットで8ルートに対して地名とSBという単語を打ち込み検索されたものを対象とし、情報誌の存在は道守九州会議HPから調べた。情報は活動でもあげられたようにルートごとにHPや情報誌を用いて発信しようとしている。現段階では行政以外でHPを立ち上げているのが1ルート(④)であり、観光協会などにリンクされてSBの取り組みが紹介されているのが2ルート(③と⑥)であり、表中△で表記している。また、情報誌は⑤ルート(③、④、⑥、⑦、⑧)で発行されており、活動や取り組みが紹介されているが、3ルート(①、②、⑤)については情報誌の発行は確認できなかった。

「資金」は応募資料の資金計画の項目から調べた。資金は、H18年度の予算であるが7ルート(①、②、④、⑤、⑥、⑦、⑧)で支援金として計画されている。資金は、行政や民間、補助金、協賛金などから支出されている。また、資金の用途については情報発信のためにHPやパンフレットの作成、シンポジウムやWS、活動費などへの利用が計画されている。

4. まとめ

- (1) 組織は、行政と民間団体で幅広く形成されている。
- (2) 活動目的は、観光とまちづくりとしたルートが多

く、各ルートのうち、都市部を対象としたものが2ルート、海に沿うものが5ルート、内陸部が1ルートである。

- (3) 広報は、5ルートが情報誌で、うち2ルートがHPを立ち上げている。
- (4) 活動資金は、数10万円～1千万円程度であり、資金確保に苦慮している状況が伺える。

本論文では、現在活動が実施されている九州のSBルートの分類と特徴について整理した。

今後は、これらのSB活動の経過を調査することで、SBが地域の活動として成就するための仕組みについて検討する必要がある。

参考文献

- 1) 石田東生：ニックバイウェイ北海道活動が関係者間の協働と意識に与えた影響、第33回土木計画学研究講演集
- 2) 宮本史大：シーニックバイウェイ北海道における行政連携に関する一考察、第33回土木計画学研究講演集
- 3) 山田直美：シーニックバイウェイ北海道における情報提供の手法と効果、第33回土木計画学研究講演集
- 4) 日南海岸きらめきラインHP：
<http://www.qsr.mlit.go.jp/miyazaki/kirameki/index.html>
- 5) 道守九州会議：<http://www.michimori.com/index.html>
- 6) 日本風景街道 戦略会議資料 第2回